

H.25

五月（今月の掲示板）

しんしゅうおおたには
真宗大谷派・願成寺

おらあ（私は）死んでも、墓の下には居らんぞ

さぬき（香川県）の庄松さんは、親鸞聖人の門徒の教え通りに生きた『妙好人・念佛者』でした。重病になつた庄松さんに親類の人が、「心配するな。お前が死んだら皆で立派な墓を建ててやるからな」と頼いました。すると、庄松さんは苦しい息をしながら、「おらあ死んども、墓の下なんかにや居らんぞ」と答えました。お墓は納骨する所なので、亡き人が『静かに眠る所だ』と思われているようです。が、真宗（門徒）の教えは、命終と共に即、阿弥陀仏の本願（第18願）により、極楽往生（往相回向）でき、その後また、この世に還り、「貴方を見守っています（還相回向）と、私達を救う働きになるので、庄松さんは「墓の下には居らんぞ」と言つたのです。

しんしゅうもんと はかまい
真宗門徒の墓参りの意味は、亡き人と過ごした日々を懐かしく思い出しつゝ、「我欲に走らず・眞実（仏法）を出遇い・眞面な人間になつてくれよ」との願いに生きようと、念佛しながら思い考えることなのです。

ねんぶつ
おも かんが